

## CHIT CHAT RADIO 子育て CHAT ROOM

2023年6月20日15時15分～15時44分



思春期(中学生)の海外留学は早すぎるとすすめるべき？

鈴木裕美先生、こんにちは。

こんにちは。

今回は「思春期に留学すること」について先生にお話しを伺っていいこうと思います。思春期に留学するのはいいことも、ちょっと大変なこともあると思いますが。

私は留学経験がありませんが、自分の子どもに対しては留学して、よその空気に触れるのは良いことだろうなと思います。でも、思春期って多感な時期でしょう？

そうですね。

思春期というと、中学生・高校生ってことですね。その時期に留学っていうのは早いんじゃないか、大学生とか社会人になってから自分で金貯めて行っても遅くはないんじゃないかとか思われる親御さんもいると思います。今回はあえて思春期に留学することのメリットを考えたいと思うんですが、先生、いかがでしょう？

はい。留学には夏休みや春休みに行く短期留学と、学校を休学して一年くらい行く長期留学があります。短期は比較的行きやすく、自分が住む市町の姉妹都市に留学すると行政から補助が出て格安で行くことができます。長期留学は学校の先生が反対することが多く、高校在学中だと受験に差し障るとか、合格してから大学で行けばいいと言われるでしょう。でも、思春期ってさっき言われたように多感な時期ですよ。多感だからこそ、いろんなものに触れると大人より多くを吸収し、感じます。私たちが流すようなことを「ああ、なるほど！すごいなあ」と感動するんです。この時期はまだ自分という形ができていません。だからこそ、多様な価値観に触れて視野を広げることで、自分が大きく変われますし、将来の選択肢を広げることができます。

もし、自分が高校時代に戻れるなら留学してみたかったなと思いますね。実際大人になつてから、私は海外に行ったんですけれども。

あ、そっか、恭子さんはイギリスに行っていましたよね？

イギリスのロンドン。ちょっと物価が高すぎましたけど行きました。最初は三ヶ月の予定でしたが、行き始めると楽しくて半年間いました。その後も何回か行って。

そうなんですね。

—やっぱり留学は今に生きてますよね。その後の自分の人生の中においてね。

—生きてるのかな？確かに、色々と価値観は変わるなと思いましたね。

—中学高校時代は、スポンジのようにいろんなものを吸収できる年頃ですよ。もちろんぶつかることや困難もあるんでしょうけど。

大人になると頭が固くなって、海外は自分には合わないとか、好きじゃないとか言って、自分の心地よいコンフォートゾーンから出にくくなってしまってますね。

—今の私だったらもう駄目です。これはこうあるべきだ、とかね。もうジジイの嫌な凝り固まった、カッチカチのね、なんだこれは！日本はこうなんだ！とかね。

そういうふうになりますよね。思春期だと異文化の生活習慣が「そういうものなんだ」って受け入れやすいです。例えばトイレで紙を流しちゃいけないとか、紙がなくて水で洗い流すとか。最初は抵抗あるけど、そもそも紙を使う国は全世界で三割ぐらいらしいですね。また、水が足りない所では一日一回しか流してはいけないと言われる。お風呂の使い方も様々で。

—そうですね、日本ではお湯を貯めて入るのが普通ですが、貯めたらすごい怒られたんですよ、私。家にボイラーがあって一日一回しか炊かなくて、その溜めたお湯を家族全員で使うんですね。なので、お湯をたくさん使うと後の人は水になっちゃうんです。私も途中で、水に変わった時には家族に嫌われてるのかわかって落ち込んだし、ショックでした。後で話したらそういうものなんだというのが分かって。経験しないとわからないですよ。

—その国、地域、家族のルールや価値観がありますもんね。

ありますよね。食事も日本では夜にしっかり食べますが、他の国では夜はクッキーとスープだけの軽食だったり、昼は必ず学校と会社から帰って自宅で家族そろってお昼ご飯を食べたりします。夫婦も子どもができて二人の時間を大事にしたり、歩くときはいつも手をつないだり、仲睦まじくダンスしたり。

—すごいですね、よその国は本当に仲良くして。

そう仲良く。でも離婚も多いし、その後再婚してステップファミリーになることも多いです。自分の子どもの卒業式にお父さんと離婚したお母さんとそれぞれのパートナーが来たり、仲良くみんなで会食しちゃったり。日本ではありえないですけどね。家族の概念が違っているの

か、私は私、あなたはあなた、終わったことは終わったこと。さあ、前に進もう！みたいな価値観もありますよね。

—個人がしっかりと確立しているから、主張もするけど、相手のことも尊重する。

—今、インターネットで情報は入ってくるけど、やっぱり異文化に自分の身を置いて実感するのと、ただ聞くだけではえらい違いがありますね。

—今、本当に便利な世の中になって海外の情報もいくらでも手に入るし、海外の方と直接ネットでもやり取りもできます。

そうですね。でも、実際に対面で会って一緒に生活を共にすることでの学びは大きいですね。実際に学校に通って友達の会話が全然聞き取れなくて疎外感を覚えたり、帰ってきて泣きながらホストマザーに話しを聞いてもらって、頭撫でてもらったりハグしてもらったり。壁にぶつかったり、人の温かみを感じたりといった経験が大事ななあ。

—日本と違うところもあれば、そうやってハグしてくれて励ましてくれる人のやさしさは世界各国共通なんだとかね。

そうですね、いろいろ経験するけれど、一番の思い出は人とのことですね。私も十六歳の時に四週間アメリカにホームステイしたんですが、その時のホストマザーとは今でも付き合っていて、彼女は八十歳過ぎました。自分の娘を連れて会ったことがありました。日本の娘だけじゃなくて、孫もできたって喜んでくれました。

—すごい、そんなに関係が続いてるってすごいいい出会いだったんですね。

そうですね。私はそのホストマザーがすごく好きで、昔からずっとYou are special（あなたは特別よ）You can do it（あなたならできる）って、何があっても絶対ネガティブなことを言わずに、温かく励ましてくれますね。高校時代から四十年近く経った今でも。本当に第二のお母さんみたいで、不思議なご縁を感じます。

—その経験を十六歳の時にできたっていうのは、先生の人生で大きいですか？

とても大きいです。すごく大好きなファミリーなのに、言いたいことも、聞き取りも半分もできなかつたんですね。次に来た時は絶対英語がペラペラになっていようって決意して一生懸命勉強しました。短期で海外行っても外国語が大して喋れるようにはならないけれど、実際行っただけで、素敵な出会いや体験をすることで、将来に対する目標が大きく変わったし、明確になったと思いますね。

―それは選択肢が広がるとか視野が広がるという最初のお話にも繋がるんですね。お子さんにも留学を経験させていらっしやるんですか？

はい、次女は中学二年の春休みに二週間ニュージーランドに行ったり、高校時代はAFS(最後に解説あり)でエクアドル(南米スペイン語圏)に一年間留学しました。長女は高校時代の夏休みに中国に三週間行き、大学は台湾でした。息子は中学時代に姉妹都市(カナダ)の短期交流に行かせて頂いたり、アイスホッケーをしたので、カナダにアイスホッケーキャンプに何回か参加しました。

―おーすごい。

―同じ共通の競技だと、会話も弾むんでしょうね。

弾むほど話せませんがね。放送禁止用語ばかり覚えて(笑)。でも、寝食を共にして一緒にチームでプレーするから仲良くなるみたいです。「コーチが自分に指導してくれた内容は分かる!」とは言っていて、日本で学べないようなことを習得できたり、スポーツを通して他国籍の子と知り合えたのはよかったです。

―子ども達は、海外に行く前と行った後では違いますか？

そうですね。帰国後のモチベーションが違うように思いますね。子どもが急にしっかりした人間になるなど劇的な変化はありませんが、将来自分がどうなりたいかを考えるようになりました。そして結果は直後には表れないので、期待しすぎないことです。留学は長期間人生に影響を与えるので、目に見える変化は五年後十年後ですよ。十四歳でニュージーランドに行っただけの子はその後紆余曲折ありましたが、英語を一生懸命勉強して二十三歳でアメリカの大学に行きました。

―海外旅行に行くのと帰りの飛行機では絶対英会話を学ぼうと決心するんですよ。でも、空港着いて日本に一步踏み入れた時からもう違うことを考えてたり。

―お茶漬け食べたいとか(笑)。

それはありますね(笑)。

―実際海外に住んで、自分が困った経験をすることで学ぶことって、すごく多いと思うんですよ。

―それは京子さんが身に染みて思っていることじゃないですか？

—言いたいことがまったく伝わらなくて。「何言ってるの?」「みたいな感じで両手あげられて文句も伝わらない。悔しいから辞書で調べて文章を書いて、もう一回言いに行ったけど、その文章がやたらと丁寧だから、怒ってるのが伝わらない。

—あっ、そうなんです(笑)。

—そう、そういうのも今になれば笑い話ですね。先生は、例えば「うちの子を留学させようと思うんだけど、受験も大事だからどうでしょう」と相談されたら、「行かせなさい」って言うんですか?

—その子が行きたければ、行かせたら」って言います。でも、親が進学にも有利になると考えて、子どもに行かせたいって前のめりになってる人は要注意です。子どもが大して興味ないというケースも多いので。

—「留学経験あります」というと箔がつくみたい。でも、子どもからすると、ちょっとね。

子どもは興味ない上に、その間部活ができなくてレギュラー取られちゃうかもしれないとか心配するケースは、行かせない方がいいって私は思います。子どもが行きたくてたまらないというケースは、留学先でたくさん吸収できますよね。

—可愛い子には旅をさせよって言いますが、そこに本人の意思がないと留学が辛い期間になっちゃうと。

その通りです。留学に消極的な子は外に出ず、ファミリーとも喋らず、個室でずっとネットして遊んでるんですよ。そして、時間が経つのを待って帰る。何も学ばないですね。

—交流することが大事ですもんね。

—そうですね、そこで刺激、まあ摩擦もあるかもしれませんが、いろんな刺激を受けることで学びますよね。

そうですね、どんどん外に出て、話したいという積極的な子だと様々なことが吸収できて、有意義な経験になると思います。

—最近アメリカは物価がものすごく高くて、なかなか留学先選ばれないと聞きますが。

最近アジアがいいって聞きますね。

—英語で留学できるんですか？

マレーシアやフィリピンのように、学校教育が全部英語でなされている国もあります。小さいころから英語だけで教育されているので、英語もきれいですし、欧米に比べて学費も生活費も安価で留学できますね。私の長女は台湾の大学に留学しましたが、全部英語で学ぶ学科がありました。娘は中国語メインの学科でしたが、どちらの学科だったとしても生活上英語も中国語も使うことになるので、結果三か国語が話せるようになるのが売りでした。

—では今はアメリカ、カナダ、ニュージーランド、オーストラリアよりも、アジアが留学先として選ばれることが増えてるんですね。

もちろん欧米は人気がありますが、金銭的にアジアが行きやすいので注目されています。生活費が月に数万円程度だったり、学費も欧米とは比較にならない程安かったり。

—この夏に留学の話などが出ているご家庭もあるかもしれませんが、行かせるメリットはものすごくあるということですね。

そうですね、長期的にリターンが大きいと思います。

—帰ってきてすぐというよりは、その先を見据えた人間形成ということですね。

—是非今日の話をご参考にいただきたいと思います。私は子どもに留学させたい派の母親なんで勉強になりました。

—私も香川はいいところですが、世界を見た方がいいと思うので、海外留学がその一つの手段になりえるなと思います。

そうですね。日本では高校も大学も、専攻を変えることが難しいですよ。文系理系もいったん決めたら変えられないし、大学の学部もそう。でも海外だと自由に変えられるし、学部二つに同時在籍できます。私が太平洋諸島のことを勉強するためにハワイ大学に編入した時は、行ってみたらお目当ての学科がなかったんですよ。

—えー！？

日本の大学を中退して行ったのに太平洋諸島研究学科が大学院にしかなくて、学部では専攻できなかつたんです。出鼻をくじかれて困っていたら、学務の人に「それなら自分の学科を作ったら？」って言われたので、そうしました。自分一人の学科を作って卒業して。

—そんなことができるんですか？

そうなんですよ。今から三十年以上前ですけど、臨機応変なんですよ。大学に学生が合わせるんじゃないくて、大学が学生のニーズに合わせる。

—ないなら作っちゃえ(笑)。

そうそう。そもそもちゃんと大学要綱を読めってことですけどね(笑)。まあ、そういう「ないなら作る」っていうのがとても素敵だなと思ったし、学生も現役生だけでなく、社会人や自分探しの旅に出ている人や、十代で出産育児した人や、そのバックグラウンドが多種多様でしたね。日本だと不登校だったり、高校で成績悪かったから進学できないとか、新卒で就職できなかったら社会で失敗しちゃうみたいな、狭い価値観に縛られますよね。私は多様な生き方や将来に対する自由な考え方が好きなんですよね。

—面白い。留学一つとってもこれ面白いですね。

—どうしても中学出て高校行くのが当たり前で、高校三年間終わったら大学行く。もう高一ぐらいから大学受験に向けて勉強してて、型にはまっていますね。

—進路どうするんだ、理系だ、文系だみたいな話だね。

—将来のことを考えるよりも目の前のお勉強にばかり目が行ってしまいう環境なのかなとは思いますが、そこでちょっと外を見る機会や時間は全然無駄にならない。

そうですね、違う世界を見ないと考え方がすごく縮こまっちゃうんですよ。アメリカでは例えば犯罪者にもセカンドチャンスを与える。困難からの挑戦に大きな価値を置いていて、ハンデがあればあるほど、そういうチャレンジャーを応援する。今までの結果として学校の成績が悪かったとしても、そこよりは「今あなたが何をしたいのか、そしてこれからどうになりたいのか」ということを最も重要視する。

—これ大事ですよ？今何をやりたいんだ、この先どうしたいんだっていうこと。

そう。そこをしっかりと持っているなら、あなたにチャンスをおげますっていう門戸の開き方をしている。日本にいと考え方が「こうすればよかった、ああすればよかった、もう今更遅い」っていう過去に引きずられた考え方がちです。親も先生も、「今がんばらないと後悔するよ」っていうような脅かし方を子どもにしますよね。だから、いろんな生き方や未来思考に留学で触れられると、自分に希望が持てるし、無限の可能性を感じることができるんです

ね。そういう視点を得るためにも、人生豊かにするために留学経験ってすごくいいなと思います。

—今日の子育てチャットルームでは、思春期に留学することということでお話を聞きました  
が、やっぱり経験されている方が言うことは、説得力がありますね。ありがとうございます  
した。鈴木先生、では今後の予定を教えてくださいいいですか？

はい、ZOOMによる子育てセミナーと交流会のお知らせです。今回のテーマは「子どもに効果  
的に教える」です。七月十一日火曜日十時十五分から一時間です。お申し込みはZOO法人親  
の育ちサポートかがわのホームページ、セミナー案内からお願いします。「親サポかがわ」で  
検索してみてください。

—鈴木先生、今月もありがとうございます。

ありがとうございます。

AFSとは、高校生の交換留学を主とした、交流・異文化理解プログラ  
ムを実施している、国際教育交流団体です。中学生の短期留学か  
ら高校生の長期留学もあり、留学先は約四十か国、約四百名が毎年  
参加し、ホストファミリーは無償で生徒を受け入れます。スタッ  
プもボランティアなので、参加費用が私費留学の半額以下で多くの給  
付型奨学金も用意されています。経済的に躊躇されている方もぜ  
ひ、ご検討ください。AFS卒業生の中には「コロナ禍で活躍されてい  
る尾身茂医師がいます。



AFSのHPはこちら